

相模における仏教々団成立発展に関する考察 その二

和田 謙 寿

一

さきに、駒沢大学仏教学部紀要において、「相模における仏教々団成立発展に関する考察、その一」として、相模を中心とした仏教々団の成立とその発展状況の前半を報告した。

つまり、その課題内容として、1、祈禱寺形式として成立発展した寺院、2、皇室を中心に成立し発展した寺院、3、菩提寺として成立し発展した寺院、4、分村により成立し発展した寺院、5、為政者の政策のもとに成立発展した寺院、6、僧侶を崇敬するのあまりに成立発展した寺院、7、庶民が他宗の僧侶に深く帰依して改宗再興された寺院、8、豪族の移動により成立発展した寺院、9、輪番制度の余波を受けて成立発展した寺院、10、別当寺として成立発展した寺院などについての十ヶ条であった。紙面の都合上、後半を止むなく削除する形となったので、ここではとくに、その後半を順に追

って考察検討することにして行きたいと思う。

11 弱小寺院が統合されて成立し発展した寺院

寺領の整理は古来より、しばしば為政者などの手によって行われてきたところである。秀吉の検地や徳川期に入ってから寺領の大幅な削減は、朱印状や黒印状の名のもとに幾度となくとり行われたところであった。各藩においても幕府のそれにならって、寺院の整理・統合改革のなされたところもあった。とくに水戸藩を中心としたところの、徳川光国による仏教政策、岡山藩の池田光政による仏教政策、会津藩の保科正之の仏教政策こそはその主たるものであった。この内容は儒学者や国学者（主に神道系の者）を背景とした排仏的な思想より芽生え、寺院の破棄とか、僧尼還俗などという方法によりなされていたのである。このようなことをなした根本的な意義は、寺院建立のための莫大なる出費や、寺院の維持に

かかわる負担の重荷より端を發したことになるものであった。つまり、そこには、為政者に関連した政治や経済的な問題が大いにあったものと考えられる。江戸時代初期以降にかけての寺院の数は割に多く、一村落到数ヶ寺からの寺院(堂宇的なものも含む)が乱立されている場合もあった。その多くの寺院は名目のみの寺院で、無住の場合も相当数に達したものと考えられる。これらの寺院や堂宇を維持して行くことは、農民や町人たちにとって、経済的にその負担は大変なることであったのであろう。やがてその重荷に絶えかねて、寺院の併合話しも出されたが、寺院の併合については各地で問題化された。もちろんその原動力は、為政者によってなされた場合もあれば、農民たち自身の手によって行われたこともあった。また、あるときには、僧侶自身の手によって行われた場合もあったといわれている。かつて、中郡成瀬村上落合の真宗長徳寺は十一ヶ寺の子院が、また、高座郡(相模原市)当麻の時宗無量光寺も十一ヶ寺の末寺を有したといわれているが、しかし、現在ではその末寺寺院も殆んど姿をなくしている。おそらく、これらの寺院の滅亡の原因は、荒廢による廢寺との併合によるものであったかと思われる。また、年成録「抑仏」中に、寺院整理について、「……一向宗に限りて必ず寺を村里の中に置いて、齊民に偏著す。大いに害あり、その宗法のことなれば俄に改めがたし、焼失の時破壊して、再建の時に

その地を沒收して、遍境寺町の商などにて、替地を与うべし、武器を沒收し、俗体帯刀、家来を停止するは、諸宗と同じ輩食の外諸宗とかはる事すくなし、村里の小道場甚多し、是も時を待つて合併すべし。云々」と述べているが、これらの内容も廢寺、及び、寺院統合に関する地方の一事物を物語るところの一形式である。これらの寺院の統合は信仰的均衡を願う心情より、同格的勢力寺院の場合にはあり得ず、その多くが寺院財力の相異の著しい場合において、有力寺院の側に併合せられるのを常とした。この種の寺院形式は必ずしも寺院の成立原因とはなり得ぬも、その發展過程としては、数多くの歴史を残したものと思われる。現在、日本各地における都市部への人口の移動は、農村部の過疎現象が生じ、寺院の衰頹や統合問題を醸し出しているところもある。

12 鬼門鎮定のために成立し發展した寺院

寺院の建立に当っては、古来より、種々の故事來歴が存在している場合が多い。間取りのとり方や寺院建物の方角などに関する問題も、その一つとして重要視せられる。とくに鬼門に関する習俗は、長い間注目的となった。鬼門の思想は(唐曆通書)かなりの古い時代より中国において信じられ、その後わが国に伝来して、東北方(丑寅)は凶位なりと一般大衆から嫌われ、その地域の凶氣を鎮めるために、そこに仏寺を設けるといふ風習が起つたのである。都の鬼門、城下町の鬼

門、城内の鬼門など、鬼門と仏寺建立にかかわる凶事退散の因果関係と、深い関係のあったことは確かなことである。京都では御所の鬼門にあたる場所に比叡山延暦寺を建立し、江戸では江戸城の鬼門にあたる場所、つまり、上野の東叡山寛永寺を建立して鬼門除けとせられたことは著名な事実である。更に古いところで、江戸の吉良一族の居城(足利期)と伝えられる東京世田谷城の鬼門には勝国寺が建立せられていた。ときに、鬼門の正反対の方角を指して逆鬼門と名づけ、鬼門に準じた凶位の方角としてそれを避ける風習もあったが、当地での寺院を建立する場合、逆鬼門をその理由として忌避されている場合は見受けられなかった。相模平野における海老名季秀の建立による浄土宗増全寺などの場合も、海老名氏居城の鬼門に建てられた一寺だといわれている。

13 茶毘所・刑場跡に成立し発展した寺院

茶毘所とか刑場の跡は、古来より共に、死者と深い関係のあったところである。この両者は昔日においては集落より隔たる遠いところに置かれるのが常であった。かかる場所の片隅に堂宇が建立せられ、故人の冥福をしばしば供養したものである。現在でも茶毘所や近郊霊園の近くに寺院の建立せられて例を見受ける。はじめは僧侶の休憩所か、読経するための便宜的な場所であったものが、その需要度が高まり、周囲よりの必要性が叫ばれるに至り、定着した寺院となり、

僧侶が常住するに至ったのであろう。かかる寺院の場合には一人で三宗の読経を兼ねるといふ僧侶もあり、一般寺院の場合とその立場を異にしている。相模平野の場合

「中郡大田村田中、臨濟宗耕雲寺、鎌倉建長寺末、享祿元年四月創建す。当寺の境外南方に茶毘所ありしが、後一寺を建つ、鑑照寺が是なり。」とあるが、茶毘所のそばには、各地において多く、「むそん堂」または、それに類似したお堂があり、僧侶がそこに出張するか、または常住して供養をする場合もあった。これがもとになってのちに一寺となる場合も二・三見うけられるが、この所在地は見捨地が多く、当然、人家より離れた山奥の地に建立される場合が多かった。これより考えると、刑場の遺跡にもこのような系統の寺院が建てられていたかも知れぬが、現在のところその類の寺院は見当らない。

更に、他地区の場合の例ではあるが、竹田氏は、とくに、この傾向の建立として、戦争や火災などの不慮の災禍の跡などに、非命にたおれた霊の祟りを慰さめんとて、寺院を建立された例を掲げられている。つまり、

。大和添上郡来迎寺

当寺起立者、大和大納言殿之時、犯罪之輩殺害之場、二間四面堂内、御長七尺地藏菩薩之石像在之。于時天正年中、開山吳誉上人於此辺結草庵、昼夜勇猛修行念仏、弔彼亡魂

給。奇瑞在之申伝也。第二代專誉上人、千日念仏修行有之。道俗貴賤群衆集。故本堂再興。

。三河額田郡大樹寺

当時応仁元丁亥歳品野大将伊保三宅加賀守……与松平左京亮親忠及合戦。是云井田野合戦。今改井田野云靈場野也。従其九年過、当文明七年、応仁元年討死亡魂昼夜鯨波声拳、貴賤恐懼止往還。近郷近里村大疫靈囃、士民死屍滿巷。依玆親忠公遂奏聞、建立一宇号成道山松安院大樹寺、令寄附三尊之弥陀、同国鴨田村西光寺住僧真蓮社勢誉愚底請待為開山、為右之亡魂、追福七日七夜別時念仏被仰付令執行。功畢、疫靈悉除鯨波声止畢。亡魂塚于今在之。親忠公感念仏威力、従此時御師檀御契約、浄土宗御帰依深。

現在の寺院は、周囲の開発によって集落の真っ直中にあるというのが現状であり、昔日の種々なる様相は、詳細な伝記でもない限り、その究明は不可能である。今後、両墓制の研究と関連しつつ、とくに、いけ墓や火葬、更に堂宇などとの関連性を考察することにより、この種の寺院形式構成の様相が明らかにされることであろう。

14 城郭跡に成立した発展した寺院

奈良時代の後期から鎌倉時代にかけて発展した形式に、古代城郭の場に寺院を建立した例があった。とくに城郭地に建立されたからといって、寺院の建築、またはその地形そのも

のを防禦的な目的をもって用いたものではない。もともと、軍事的に有利な地に神仏を祀ってその偉大なる威力によって怨敵を退散せしめんとしたものであるといわれている。中世以降の城郭は道路の要地にあり、防禦に都合のよい小高くて見通しのよい場所、しかも軍事的に地形險要の利用度の高い土地に築城されたので、廃城になると、そのまま寺院としての立場で建立される場合が多かった。

更にまた一つには、廃城諸英霊の供養を目的として考えられた場合もあった。廃城跡に鬱蒼と繁った樹木の壮観さは、寺院の存在をして一層権威あるものとしたに違いない。ときには城郭の一隅に、領主の出身地寺院を勧請して一寺を建立した例もあったといわれる。相模平野の中央部、中郡岡崎の浄土宗無量寺は岡崎城本丸跡につくられた大寺院であり、また、中郡城所の曹洞宗浄心寺は城所下にも出来たところの寺院でもあった。この種の寺院は、築城の豊かなるわが国においては、思いの外存するのではなからうか。

15 平和な地を求める僧侶によって成立発展した寺院

新羅の時代に道誥という僧侶が風水の説を主唱し、「国脈地勢を鎮定稗補する」といって、著名な山川の土地を選び寺刹を建立した。」といわれているが、日本においても昔日より、山水幽谷、無為の世界にその根元を求め、仏の道場を建立せんとした者は意外に数多く存したのであった。静寂を重んじ、

わびを慈くしむ僧侶たちは競って小庵をかかる地に建立し、自己の趣好を生かしつつ禅定にしたっていったのであろう。更にまた、往古無常の風の吹きあびた各地に戦乱の多き時代には、これを嫌って、平和な地を求め、そこに庵を営む僧侶たちもあらわれた。やがてしばらく滞在することにより近郊住民との接触も出来て、寺院建立発展ムードの要因をなしたことは確かであった。前述の厚木在相川下岡田の曹洞宗永昌寺の場合の如く、伊豆蔵春院の住僧、湖翁能音が兵乱を避けて当時院に錫を止め、それが寺院のもとを開いた動機となつたし、厚木市上荻野の曹洞宗松石寺の場合も、天巽の上州の兵乱を避けるがための滞留が、やがて当寺を改宗させる結果を得さしめたのである。本項とは多少その意義が異なるかも知れぬが、中郡比々多村真田の曹洞宗天徳寺（下総国総寧寺末、当時は天徳元年美濃国関県鑄物屋庄に創建したが、そののち堂舎が傾頽したので、応永中に江州太守六角源氏頼が修補を加えた。五世の仲周の時に濃州の兵乱を避けて遠州の掛川に移り、乗安寺を開創した。七世の義翁盛訓の時に掛川でまた擾乱が起り、依って当所の字東堂坂に來りて住まった。時に北条氏の臣鈴木隼人某が義翁を帰重して、真田義忠の城跡に寺地として造立した。）の場合も同様の理由によって、移転による寺院の起立がなされたのであった。

戦乱の地より免がれんとして平和の地を求めようとした僧侶たち、求道のためにせせこましい都市部を離れて安隱の地に赴いた僧侶たち、その立場こそ異なれ、わらじをぬぎ庵に落付いた僧侶たちは、文化人としての一員であり、更にまた、村落共同体の中心的な人物として社会に一灯を捧げたのであった。

16 退隱形式によって成立し発展した寺院

退隱とは、かつて布教活動に、または、社会事業に従事してきたところの老僧たちが、第一線を退き、晩年に至って安らかに老後の道を精進することで、在家で俗にいう隱居に相当するものである。また、寺伝にいわれるところのいわゆる隱居という場合は、世俗からの隱遁閑居を必ずしも第一義とするものではなく、他に本義を有している場合がしばしば認められるのである。隱居寺の最も一般的な形式としては、一寺院の住職が退院して隱居となり、別寺を隱居所として建立し、前任寺を本寺としてその末寺となり、本末関係がつけられて行くのである。更に一概には云いえぬところではあるが、空間的な立場で退隱寺の所在を考えると、その性質上、寺院の大きさも当時においては広大なるものは意外に少なく、所在地域もまた、氣候的に温和な、しかも風景的にもすぐれた山間地や海岸部、または河岸下流などの地味が肥え、しかも、健康的にすぐれた土地に多く居住せられたのであった。

また他方においては冥想にふけり、禪定にちなんだ山岳の妙味を満喫出来得る山間の地を特にえらんで、安住の地となした老僧たちも多かったようである。退隠形式の寺院は別名、隠居所とか、隠居寺、隠退地などの名称をもって知られている。この種の寺院は浄土宗や日蓮宗の間に多く、湘南の平地部に庵を組み、代表的な寺院として、藤沢市の浄土宗常光寺(鎌倉⁹)光明寺末、元亀三年、本寺二十七世明蓮社光誉の退隠の場所として建立された寺院)や、同市の法華宗妙善寺(鎌倉¹⁰)妙本寺末、当寺の縁起によれば、僧日山の文永年間の起立にして、妙本寺および池上本門寺、両住持の退隠の地なりと見ゆ。)などを挙げることが出来、後者の例としては、真言宗や曹洞宗に多く見られ、相模中部の山間地、または台地部に分布している。その代表的な寺院としては、秦野市名古木の曹洞宗玉伝寺をはじめとして、厚木市玉川字七沢の曹洞宗¹¹の広沢寺(下総国総寧寺末、相模関本「旧足柄上郡」最乗寺開山了庵、この地に庵室を結び露柏庵と号し隠栖とす。その後、住僧原佐の時一寺とす。)高座郡渋谷町在、上和田の古義真¹²言宗真福寺(藤沢宿感応院の末、むかし瀬谷村宝蔵寺の住僧「融賢」天正七年三月二十三日卒)退隠後、当寺を草創せしという。)などがあつた。いずれにしても、この形式の寺院は寺務の性質上、庵というべきもので、後世に至り拡張発展されたものが多かった。もちろん、他地域においても「隠居

寺の例はしばしば聞かれるところであるが、今ここに、竹田氏による越前の浄土宗寺院の場合を紹介してみることにしよう。

。越前 文室村 大法寺末 正向寺

開山越府大法寺隠居盛誉上人存雄和尚。当寺者人王二十七代継体天皇之御祈願所之由。緒也起立今年迄一千百八十年、中絶、慶長十八癸丑年存雄和尚住、以来浄土宗大法寺之末寺也。

。越前 具谷村 大法寺末 法林寺

開山越府大法寺二代岸誉上人雲海和尚。……當時者、具谷村之氏神正八幡宮之社僧起立。四百余年中絶、雲海和尚已来大法寺末寺。開山元和乙卯年隠居。

。越前 岡本村 大法寺末 法源寺

開山越府大法寺五代品誉上人見諦和尚。……当院者岡本村之氏神白山権現宮之社僧也。古跡、神主有之所中絶。正保元甲申年、見諦和尚隠居、当時起立。已来大法寺末寺。

17 因縁説話形式によって成立発展した寺院。

日本には仏教の伝来する以前より、多くの民間信仰習俗が存在し、上代人の心のよりどころとして大切にせられてきた。民間伝承はあるときには仏教思想と習合し、また、あるときには、儒教的な思想と結合して、種々なる日本の習俗行事を構成してきたのであった。かかる伝承としての因縁説話の中

には、見逃がす事の出来ぬ重要な意義をもつものが意外に多く存在した。その中の一つとして、神社や仏寺における伝承をかかげることができる。つまり、神社の成立に欠くことの出来ぬものに、種々なる伝説に残る不可解な神秘的な因縁説話がある。このことは同じ宗教である仏寺についても言い得ることであった。神仏のお告、霊蹟、夢想、霊像漂着、奇蹟、あるいは、霊木、霊水、霊石を対象として生じたところの因縁説話に端を発する諸問題、民間農耕儀礼などの例がこれである。これらの問題は、後に因縁説話が作り出されることが多いのであるが、だからといってこのようなことが、全然無意味なことであるとはいえない。昔日においては、寺院の建立や場所、方位などに、大きな影響を与えたことは確かであった。(その他に、片割心中などの情事により、一方が生き残り、のち発心して僧となり、庵を作り身をきよめ、亡霊の供養をなしたなどの説話もこの中に入れよう。)

1、中郡土沢村下吉沢の曹洞宗松岩寺(能登国総持五院普蔵院の末)文亀二年、当所の地頭布施三河守康貞が此寺を起立した。当寺起立の時、この地水乏しかりしに、如幻(開山)が法力によって水を得たいという。今も本堂の裏に湧出する清水が是であると云われている。

2、高座郡小出村葛原の不動堂(慶安¹⁵五年六月、村民与右衛門、夢想の告ありて境内の側より出現したという。八寸余

相模における仏教々団成立発展に関する考察 その二(和田)

りの立像、前立は坐像である。承応三年、地頭の長田喜左衛門重昌が病に罹ったとき、霊験を得てすみやかに癒ったから、翌年報賽として堂宇を建立したという。)

3、厚木市上依知の法華宗妙伝寺(下総国中山法華経寺の末、俗に星下り寺と称している。相伝う寺地はもと、本間六郎左衛門尉重連の宅地であった。文永八年九月十三日、重連の弟三郎左衛門直重が、宗祖日蓮を滝ノ口より当所に伴い来りて、重連の邸中にある観音堂に居さしめた。「但、直重を重連の郎等越智氏と記している。」その夜、日蓮、明月に向って法楽をしたところが、堂前の梅樹に大星が下りて化益を助けた。——伝記に、九年二月重連、日蓮に帰依して当宗に入り、よって日蓮宗守護の曼荼羅を授与された。弘安元年九月、僧日源彼の星の下梅樹の傍に草堂を営み……後、日蓮を請待開山とし、重連・直重兄弟を開基として一寺となし、日源は第二世を名乗った。これに類似した伝説は、中依知の梅香寺、金田の妙純寺にもあり、その因縁説話のとり合いで中古以来何度も論争しているけれども、何れも左証なく現在に至っている。)

4、厚木市小鮎字飯山の曹洞宗金剛寺(厚木¹⁷三田清源院の末、空海開基の霊場なりという。天文年中僧中州「本寺四世」関本最乗寺輪番のおり当所の観音、及び、当寺の大師堂に礼拝通夜せし時、護神の告に任せ、輪番おわってここに来り、

再建して今の宗派に改めたと言う。昔は密宗、開山は中州である。このほか真言系の多くの寺院に、弘法大師の伝説より端を発して建立されたところの寺院のあることを特記したい。奇蹟と宗教とは昔から不可分の関係にある場合が多い。これらの縁起関係が発展して、寺院の建立によりよい意義と希望とを与え、ここに本尊以外、多くの神仏の出現繁昌を見るのである。この傾向はとくに法華宗や曹洞宗の間に顕著に見られた。また、寺院の成立に大いに関連のある開山僧などの場合にも、時折、寺伝として、史実とは到底考えられそうもない人物が登場してくる場合もある。

以上、十七項目に分けて寺院の成立条件を考察してみた。もちろん研究の方法によっては、それ以外にも、種々なる角度より考察することが出来るかも知れない。また、寺院成立条件の過程も、一項目の場合によるよりもむしろ、二―三項目による複合的な要素をもって構成されるのが通例であった。さて、次項においては、先ず、相模平野における仏教宗派教団の発展過程を、臨済宗・浄土真宗・日蓮宗の順に掲げて、考察してゆくことにする。

二

臨済宗は、曹洞宗より一步先に諸国に鋒先を向けたが、それだけに旧仏教の風当りは強く、柴西自身、当初は、真言、

天台等旧宗派の動静をみつつ、発展していった。鎌倉建長寺成立の前後になると、大陸より渡来した禅僧の数を増し、清拙正澄・明極楚俊・竺仙梵僊などの中国禅林の一流僧までも来朝したのである。しかも彼等の多くが関東に集まったため鎌倉は一時に、臨済宗の中心地とまでなり、中国⁽¹⁸⁾における禅林官寺制度がわが国にも設置されるまでに至った。彼等の入日の動機の多くは、宋末、元初における戦乱を避けてきたものであるが、一部に北条氏等の招請に応じて渡来してきた僧のあることを忘れてはならない。宋僧祖元は北条時宗の招きで弘安五年に円覚寺に開山となり、蘭溪道隆が時頼に請ぜられて建長五年に建長寺に入った如きものである。かくして、鎌倉にさしかえた臨済禅は文永、弘安の前後をもととして、関東地方一円に教線を拡張することになったのである。禅僧たちは文化面にも庶民に影響するところが大であった。精進料理は一般民衆に入って家庭料理に革命を与へ、納豆は禅僧の食用から広く一般に普及した。禅宗⁽¹⁹⁾の点心は武家にも伝って朝夕二食の間に「お八つ」食が起り三食の基礎を作ったというし、これによって羊かん、うどんを始め、種々な菓子類が発達した。饅頭も柴西によって日本にもたらされたもので京の名物になったといわれている。ただこのようにに在俗的になった禅宗も、鎌倉後期から、室町にかけての名僧智識のばっこした全盛時代に、禅の法門⁽²⁰⁾を説いた謡曲の絶無に近かつ

たことは不思議に思われる。相模平野における臨濟宗の寺院数は計六十九ヶ寺である。その中、現存の寺院数は四十六ヶ寺で、滅亡寺院は二十三ヶ寺にも及んでいる。これを建立の年代からなげめると、鎌倉時代に建立の寺院は八ヶ寺、南北朝時代には十三ヶ寺、室町時代には二十二ヶ寺、安土桃山時代には十一ヶ寺、江戸時代前期には八ヶ寺、不明七ヶ寺となっている。その中、室町、安土、時代前期、内三時代に建立された寺院中には、滅亡寺院が多く、それぞれ五、七、五の順になっている。このうち、とくに古い臨濟寺院をあげると、鎌倉時代のものに、高座郡海老名町国分の竜峯寺、及、清水寺、高座郡有馬村今里の東林寺、中郡相川村長沼の香徳寺、厚木市依知の建徳寺、相模原市新戸の常福寺、秦野市東秦野の宝蓮寺、及金剛寺などがかかげることができる。ついで南北朝の時代に入ると、十三ヶ寺も建立されている。前者の鎌倉時代建立の寺院の分布状況も、後者の南北朝時代建立の寺院の分布状況も、いづれも相模の中央部に進出し、その中、鎌倉建長寺系寺院の発展がとくに目ざましいものがある。

。建長寺系（鎌倉市山の内）

相模平野における臨濟宗寺院中一番広範囲に分布している寺院の系統は、建長寺の一派である。この派は鎌倉時代にすでに六ヶ寺を相模の主要地点に分散している。すなわち、相模国分寺の所在地である海老名町国分の地に竜峯寺を、「竜峯

寺はその近くにあり、密宗の寺院を蚕食して清水寺（鎌倉時代）を当派に改宗させ、室町時代には、国分の真福寺座間望地の東福寺を、つづいて、江戸時代初期には、同じく国分の地に、林光庵を建立している。」相模の古道にそって、秦野市田原の金剛寺、同じく蓑毛の宝蓮寺、中郡相川村中沼の香徳寺、厚木市依知町金田の建徳寺、（江戸時代後期に建立したところの末寺で、長泉寺、靈光院の二ヶ寺がある。——いづれも現在滅亡）相模原市新戸の常福寺を数えることが出来る。南北朝の時代に入ると、厚木市愛甲の円光寺、厚木市七沢の徳雲寺、同じく厚木市厚木の長福寺、中郡太田村下平間の広濟寺、比々多村三之宮の能満寺、城島村小鍋島の慶徳寺、高座郡綾瀬町吉岡の濟運寺、相模原市田名の南光寺、同じく大島の清岩寺が、さらに室町時代になると、相模平野の中央部に十二ヶ寺の寺院が、（中郡成瀬村の普濟寺及大玆寺。中郡大山町坂本の成就庵、中郡伊勢原市池端の蔵福寺。同市田中の耕雲寺。厚木市妻田の青松寺。中郡大田村沼目の泉竜寺。愛甲郡愛川の正住寺。高座郡座間町の崇福寺及、心岩寺、高座郡有馬村上河内の定国寺。相模原市橋本の香福寺）安土桃山の時代には四ヶ寺が（中郡大田村沼目の相寿寺。同村小稲葉の長生寺。中郡高部展村西富岡の幡蔵寺。一ヶ寺不明）江戸時代前期には、一ヶ寺（中郡大田村下谷の幢昌寺）が、それぞれ建立されるに至った。以上、三十四ヶ寺の建長寺系

の寺院(実際には、もつと多かつたのかも知れないが)は、室町時代を頂点として相模平野の中央部に集中分布している。尚、建長寺の孫末寺、寺院までも加えたならば、おそらく、当地臨濟寺院の半数以上にのぼることであろう。

。円覚寺系(鎌倉市内の内)

それに続いて鎌倉方面より当地に発展したところの寺院は、鎌倉山の内の瑞鹿山円覚寺(弘安五年)である。当時は高座郡有馬村今里の東林寺(弘安六年)をはじめとして、渋谷町長後の永明寺(南北朝)厚木市荻野の養徳寺(室町時代)渋谷町七ツ木の東勝寺(建立年代不明)などの計四ヶ寺をかかげることができる。そのほかに、鎌倉方面よりの進出寺院をかかげるならば、福寿寺の末寺である。松陰寺(高座郡有馬村杉窪一年代不明)一ヶ寺があるにすぎない。

以上、述べた如く、相模平野における臨濟宗寺院の多くは、関西方面からよりは、むしろ鎌倉より逆に西方に向って発展したことがうなずかれる。

三

真宗は京都に興り、関東では下野、常陸に地盤を確保している宗派である。ことに下野の高田では専修寺一派をもつて組織している。この宗派が、関東平野で伸びえなかつた理由の一つは、この地が真言、禅宗の地盤で侵入のすぎがなかつ

たと同時に、米場地たる近江、美濃、越前、加賀、越中、の教線拡大に力を注いでいたからである。相模平野に存するいくつの真宗寺院の多くは他宗からの改宗寺院と、説教寺院とであつた。宗祖親鸞は浄土宗を所依としてこの教団の発展を計つた。彼は、法然の七万篇念仏を退けて「余行を修するは念仏の妨げとなる、余行を捨てねば弥陀の本願を信じたことにはならぬ。」と主張した。さらに「念仏して、救わるるのではない、弥陀の本願を信の一念によるとした。」また、真宗では教化するにも、高座に昇つて説教することを好まなかつた。空善日記にも「平座にて皆と同座するは、聖人の仰せに四海の信心の人は、みな兄弟と仰せられたれば、我もその御言の如くなり、又、同座をもしてあらば、不審なることをも問かへし、信をも、よくとかれしとの願ひなりと仰候」とあり、平座説法を主張して、民衆とともに生きることを主願とした。他方、親鸞は自分自身で肉食妻帯を体験して、在家法師の徒をもつて任じ、最下層民たるエタや非人を濟度された。真宗の肉食妻帯を、世間では種々批判するものが多かつたが、正当理由の外に他宗にやや立ちおかれて教線を張つた真宗においては、その点止むをえぬものがあつたのである。むしろ、この方法によつて他宗の教線網中に侵入して拡張することが出来たのであろう。すなわち、①妻帯をすることによつて、夫が布教のため寺を留守にしても、万事ぬかりなく、

寺務をつとめることが出来る。②縁故によるところの発展も出来る。③政策結婚によって、教線拡張を確保することが出来る。④肉食妻帯を始めとして、自由を求める僧侶たちをかく得ることが出来る。⑤自分の子供（肉親者）を弟子として、つがせることが出来る。等種々な点に有利だったのである。彼の教理は至って、判然とし、「一方に罪を犯しながらも、一方に仏を信ずることによって、極楽に往生し得る。」というのである。この点から考察すると、仏教から遠がかった非人までも皆この宗旨に救われることになるのである。真宗の布教者たちは、各地に定住してその地の俗人を妻帯し、財産を私有したまま、その家を説教所として伝導を開始する。しかも、この宗では俗人が道師(21)となることが出来たから、説教所はそのまま寺院ともなり、そこで、念仏法要なども営むことが出来た。すなわち、真宗はそのまま家族生活に流入することが出来たのである。そのため、一向一揆を始め、政治上の問題が活発化すると、宗教団体がそのまま農民団体と一致し得るに至ったのである。さらに、天文の頃から、キリスト教の免許符に似た後生御免という来世往生の特典附与をはじめ、各寺院たちは講を作って、門徒の獲得に経済的な面に、それぞれ大きな成功をおさめた。

相模平野における真宗の寺院数は、計十六ヶ寺であり、時宗と共に当地には、あまり発展しなかったところの寺院であ

相模における仏教々団成立発展に関する考察 その二（和田）

った。そのうち滅亡した寺院はわずかに一ヶ寺である。これを建立年代の上からなげめると、鎌倉時代に建立したものの九ヶ寺で、ついで、室町時代に三ヶ寺、安土桃山時代に三ヶ寺、江戸時代前期に一ヶ寺の順となっている。このうち、とくに古い鎌倉時代建立の寺院は、相模平野中央部の耕作地帯から、湘南海岸地方の一带にかけて発展している。また、当地における真宗の寺院は、東本願寺、西本願寺、及、勢州一身田専修寺の三系統よりなっている。

。東本願寺系（京都七条烏丸）

東本願寺は浄土真宗大谷派の大本山であり、本願寺十一世顕如によって文禄元年（一五九二）に建立した大刹である。この派の相模への進出はめざましく、真言寺院を次々に侵して、浄土真宗に改宗させていった。安土桃山時代以前の寺院は過半数がかくの如くして出来たところの寺院だと云っても過言ではないようだ。それに東本願寺がさかえるに至り、西本願寺系より東本願寺系へと派変えをするものがふえたことも原因するらしい。真言宗より当宗派に改宗した模様の主なる寺院をあげると、鎌倉時代建立の寺院に、中郡相川村下岡田の長徳寺・中郡成瀬村上落合の長徳寺・茅ヶ崎小和田の上正寺などの寺院をあげることができる。そのほか、東本願寺系の寺院としては、鎌倉時代に藤沢市鶴沼の万福寺が建立せられたのをはじめとして、室町時代には、平塚市馬入の真福寺、

高座郡有馬村社家の法閑寺、安土桃山時代には高座郡有馬村社家の明窓寺、高座郡大和町上草柳の善徳寺、江戸時代前期には大和町上草柳の永安寺などの寺院が、それぞれ建立せられている。

。西本願寺系(京都市下京区堀川通)

西本願寺は真宗本願寺派の大本山で、文永九年(一一七二)浄土真宗の祖親鸞の末女覚信尼によって、はじめられた大刹である。この派の当地への発展は、鎌倉時代にはじまっている。すなわち、藤沢市藤沢宿の永勝寺をはじめとして、中郡相川村下岡田の長徳寺・厚木市三田の青蓮寺・厚木市飯山の弘徳寺・同じく、光福寺などの寺院をかかげることができる。その教線拡張の方向は湘南地帯に伸びたところの藤沢の永勝寺を除いて、他のすべての寺院が皆、相模古道と、相模川との交叉する地点に建立されている。尚、南北朝時代以後の当派寺院の発展がとぎれていることは前述した如く、東本願寺派に比べて西本願寺が教線拡張運動面において手うすだったからかも知れない。

。専修寺系(伊勢国河芸郡一身田町)

専修寺は初め下野国高田に存したが、同寺の十世真慧が寛正六年(一四六五)に真宗の教線が西方に移動したのにかんがみ、現地(伊勢)に移転したもので、現在では真宗高田派の本山となつている。専修派の当地への発展は室町時代に藤沢市

鶴沼の地へ了受によって空乗寺を建立されたのをはじめとして、ついで安土桃山時代に高座郡座間町栗原の地に専福寺を建てたので終っている。これは年代的に見て、上野国頃の専修寺よりの末寺寺院であり、勢州一身田に移ってからの、この派の当地における発展状況には見るべきものはなかった。

四

親鸞とほぼ同時期に現われたのが日蓮である。彼は新天台の「南無妙法蓮華経」を継承し、それに浄土宗の念仏と同じ地位に与え、浄土の「信即念仏」を、「信即唱題」に置きかえた。唱題とは、口で南無妙法蓮華経と、唱えるだけのものであるが、それは三業受技と称して、意に思い、身に行う上には、口で唱うることが策励の力となる。従って口で題目を唱うることは、同時に身に唱へ心に唱うる意味をなすものであり、これを唱題成仏の意義とするのである。このように、庶民にわかり易い教理を説いた上に、民衆に対して民間信仰を認めることが寛大であったために当派の発展の基礎をきずくことが出来た。ただ彼は熱心に法華経を説こうとしたばかりに、他宗の攻撃を行い、念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊などと唱えたため、一部には敵をつくった場合が多かった。ただ彼は自己を漁家の出として自ら旃陀羅^{センダラ}、つまり、エタの子と称して、布教伝導をしたので、下層民たちの入信する

者も少くなかった。東海道すじから、関東甲信越に信者が多い。この宗派が武士の本拠であり、しかも、新天台、浄土宗の中心地、関東において活躍したのも前述の課程を考察するとうなずかれるであろう。

相模平野における日蓮宗の寺院数は計七十九ヶ寺である。そのうち、現存の寺院は六十九ヶ寺で滅亡寺院は十ヶ寺にも及んでいる。これを建立の年代からみると、鎌倉時代には十二ヶ寺、南北朝時代には六ヶ寺、室町時代には二十ヶ寺、安土桃山時代には十五ヶ寺、江戸時代前期には十四ヶ寺、江戸時代後期には三ヶ寺、明治・大正時代には三ヶ寺、昭和になつて二ヶ寺、年代不明寺院四ヶ寺となつている。以上の如く寺院の建立の年代は室町に続いて安土から江戸時代前期がもっとも多く、海岸地方、とくに湘南の都市部や、山岳のエタ部落に散在している。他方、滅亡寺院について観察すると、江戸時代前期に建立された寺院に滅亡寺院が集つているが、他宗のそれに比べたならば、一番、滅亡率の少ない宗派の一つである。このうちとくに古い寺院をかかげると、鎌倉時代のものに、高座郡座間町座間の円教寺、中部比々田村串橋の長立寺、藤沢市片瀬の本蓮寺、中郡金目村吉田繩の蓮昭寺、高座郡有馬村社家の常在寺、厚木市上依知の妙傳寺、厚木市中依知の蓮生寺、藤沢市藤沢の妙善寺、厚木市船子の本盛寺、平塚市平塚の法要寺などの十二ヶ寺をあげることが出来る。

このうち、二ヶ寺は滅亡寺院となつている。

。久遠寺系（山梨県南巨摩郡身延山）

身延山久遠寺は日蓮宗の総本山で弘安四年（一二八一）日蓮の建立である。当派は直接、間接に相当数の法華宗寺院を相模平野に発展させた。直系末寺院の数は実に十七ヶ寺以上にものぼる。その主なるものをあげれば、鎌倉時代に日蓮の建立による平塚市平塚の要法寺をはじめとして、中郡比々多村串橋の長立寺、南北朝時代には厚木市愛甲の長福寺、室町時代には、高座郡綾瀬町深谷の大法寺、高座郡海老名町中新田の海源寺、厚木市下古沢の本照寺、厚木市愛名の妙昌寺、中郡金目村南金目の法傳寺、中郡比々多村三之宮の法泉寺、中郡比々多村串橋の妙藏寺、安土桃山時代には、中郡金目村南金目の字信寺、愛甲郡煤ヶ谷村の蓮久寺、中郡大野町中原下宿の慈眼寺、高座郡小出村堤の妙傳寺、江戸時代前期には、中郡大野町中原下宿の妙行寺、平塚市平塚の妙安寺、高座郡寒川町田端の万部寺、などの寺院をあげることが出来る。

。本覚寺系（鎌倉市山ノ内）

本覚寺は身延山久遠寺の末寺寺院である。この派の系統は、すでに室町時代中期には、相模の海岸部に発展するに至つた。すなわち、茅ヶ崎市西久保の妙運寺がそれである。その後、安土桃山時代には高座郡御所見村打戻の妙福寺、高座郡相模原市上鶴間の青柳寺、の二ヶ寺が相模川沿いにと北に向つて

発展するに至った。

。本門寺系(駿州富士郡山下村)

日蓮の遺骨は、遺命によって身延山に葬り、日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持、の六老僧が輪番して、祖廟を守り、久遠寺を建てて根本道場たらしめた。弘安八年(一二八五)波木井実長が輪番州の不便を察し、日向を永く身延山に住せしめんと企てたので、日興は反対して、富士山下に大石寺、および本門寺を建立し、本迹勝劣の教義を唱え、これが後の、本門宗、日蓮正宗の起源をなした。相模平野に発展した大石寺系の寺院は、御所見村瀬郷の地に、常久庵が建立された程度で別に見るべきものがないが、本門寺派の寺院としては、鎌倉時代に高座郡有馬村社家に発展した日乗による常在寺をはじめとして、安土桃山時代には高座郡小出村芹沢の蓮妙寺、江戸時代前期には、厚木市飯山の本禅寺などが建立されるに至った。

。法華経寺系(下総国東葛飾郡中山町)

法華経寺は、日蓮宗四大本山の一つで、文永四年に日蓮によって開かれた大刹である。

法華経寺系寺院の相模への発展は、鎌倉時代をはじめとして、相模平野中央部から、相模川沿いに、茅ヶ崎方面にと向って進化した。すなわち、鎌倉時代には、厚木市中荻野の戒善寺・厚木市上依知の妙傳寺・厚木市中依知の蓮生寺・南北

朝時代には、茅ヶ崎市今宿の上国寺・室町時代には、厚木市猿ヶ島の本立寺・江戸時代前期には、茅ヶ崎市今宿の信隆寺・建立年代不明の仏国寺などの七ヶ寺が建立されるに至った。

。誕生寺系(房州小湊)

室町時代になると、相模原市大島に日修によって法性寺が建立され、ついで安土桃山時代には大田村沼目に蓮華寺が、江戸時代前期には、中郡大野町新土に円隆寺が建立された。

。妙本寺系(鎌倉比叡谷)

妙本寺は鎌倉における日蓮宗の本山である。その発展方向も非常に広範囲で、身延山久遠寺系の寺院について、第二位をなしている。すなわち、鎌倉時代には、日純の開山による藤沢市藤沢の妙善寺をはじめとして、厚木市船子の本盛寺、中郡金目村寺田縄の蓮昭寺・南北朝時代には茅ヶ崎市萩園の常願寺・高座郡海老名町大谷の妙元寺・室町時代には、相模原市鵜野森の幸延寺・高座郡寒川町一之宮の妙光寺・中郡大田村下平間の隆安寺・安土桃山時代には茅ヶ崎市高田の本在寺・江戸時代前期には、秦野市曾屋の長源寺・茅ヶ崎市室田の妙行寺・建立年代不明の高座郡小出村芹沢の法円寺、などの寺院をあげることが出来る。この派の寺院形態をここに定義づけるならば、相模川沿線の水田耕作地帯に分布しているということが出来る。その他、妙純寺系(厚木市金田)や本国

寺系（京都下京区五条通）の寺院も存在したが、他系に比したら見るべきものはなかった。

参考・引用文献

- (1) 新編相模風土記稿三、昭和八年雄山閣発行 九頁
- (2) 同 右 三六二頁
- (3) 同 右 三十三頁
- (4) 竹田聴洲著「民俗仏教と祖先信仰」昭和四十六年東大出版会発行 五八一頁
- (5) 日本書紀卷二十四、皇極天皇四年六月の項「中大兄即入法興寺。為城而備。風諸皇子。諸王諸郷大夫・臣・連・伴造・国造・悉皆随侍。」
- (6) 大類伸・鳥羽正雄著「考古学講座」中（城郭及び城跡の項）雄山閣 一二六頁
- (7) 石野瑛著「武相考古集録第三」昭和十一年一月一日武相考古会発行 三頁
- (8) 新編相模風土記稿三 昭和八年雄山閣発行 八十六頁
- (9) 同 右 二七三頁
- (10) 同 右 二七三頁
- (11) 同 右 二四九頁
- (12) 同 右 三十一頁
- (13) 竹田聴洲著「民俗仏教と祖先信仰」昭和四十六年 二八三頁

相模における仏教々団成立発展に関する考察 その二（和田）

- (14) 新編相模風土記稿三 昭和八年雄山閣発行 十五頁
- (15) 同 右 二九四頁
- (16) 同 右 一九三頁
- (17) 同 右 二十六頁
- (18) 今枝愛真著「歴史地理五四四号」（中世禅林の官寺制度） 六頁
- (19) 江馬務著「日本生活史」昭和二十二年六月小川書房発行 一三〇頁
- (20) 魚澄惣五郎著「日本風俗史講座」（室町の項）雄山閣発行 二十七頁
- (21) 新日本史大系第三卷、昭和二十九年十月朝倉書店発行 二八一頁
- (22) 児玉幸多著「江戸時代の農民生活」昭和二十三年大八州出版発行 一九〇頁
- (23) 喜田貞吉著「日本風俗史講座」中（賤民概説）雄山閣発行 八十五頁